

近丸新道（ちかまるしんどう）から一日で周遊

甲武信ヶ岳（こぶしがたけ）—雁坂峠（かりさかとうげ） 久保田穂積

西沢渓谷（にしざわけいこく）遊歩道の途中にある近丸新道から木賊山（とくさやま）を經由して甲武信ヶ岳に登り、奥秩父主脈縦走路を東に進み、日本三大峠の雁坂峠から、広瀬の「道の駅みとみ」に下る周遊コースを歩いた。

西沢渓谷入口バス停下にある、市営駐車場に車を止め、西沢渓谷への林道に入る。

西沢渓谷周遊道路が左から合流している地点にあるトイレの先の、近丸新道の標識により右側の登山道に入る。

取り付きの急坂を 10 分ほど登り、又ク沢の瀬音を左下に聞きながら、川の上の巻き道を緩やかに登って行く。50 分ほど登り、又ク沢を仮橋で渡ると、本格的な急登になり、支尾根の岩や木の根交じりの登山道を登る。じっとりと汗ばむころ、1869 沓峰の徳ちゃん新道との合流点に達し、鶏冠（とさか）尾根の険しい岩稜を見ながら一息つく。 ※1

戸渡（とわたり）尾根の登りにかかるとシャクナゲのトンネルがしばらく続く。倒木の多いシラベやコメツガの林の中の道に変わり、歩きやすい緩い傾斜から急坂になり、休憩を入れて樹林帯を登って行く。

上方がパッと明るくなり、崩壊地の上の好展望地に飛び出す。西側と南側が開け、鶏冠尾根の彼方に金峰（きんぷ）山、国師（こくし）ヶ岳、奥千丈（おくせんじょう）岳が見渡され、その左側には、富士山の雄姿も雲の上に浮かんで見える。



西破風山山頂



コメツガの林の中をひと登りすると、奥秩父主脈縦走路にぶつかる。左折して緩やかに登ると、展望の利かない林の中の木賊山に登り着く。頂から少し下ると、前方に甲武信ヶ岳の全容が眺められるザレ場があり、林の中をひと下りで甲武信小屋に着く。

小屋前のベンチで一息入れ、甲武信ヶ岳に向かう。ジグザグ道を 15 分で山頂に登り着く。山名は甲斐（かい）、武蔵（むさし）、信濃（しなの）の国境にあることから、その頭文字をとって命名されたという。

山頂から南に落ちた水は笛吹川（ふえふきがわ）に、北に流れて千曲川（ちくまがわ）、東は荒川となり、東京湾に注ぐ。「日本百名山 甲武信岳」と表記された3つの標柱の下で360度の大展望を堪能するとともに、山座同定を楽しむ。

甲武信小屋に戻り、木賊山北側の薄暗い巻き道を雁坂峠への縦走にかかる。15分ほどで木賊山経由の道を合わせる。ザレ場を通り急坂を下ると、行く手に破風山（はふさん）



東破風山山頂

が大きく眺められ、やがて立派な破風山避難小屋が建つ笹原の鞍部に下り立つ。

行く手に西破風山がそびえたち、200mほどの登り坂の急登がきつい。やっと林の中で展望の利かない頂上に登り着く。

露岩を縫いながら、緩やかな尾根筋を東進して眺望の利く東破風山を越え、いったん下り、明るい尾根を登り返して雁坂嶺を越え、広々とした草原の尾根を下ると日本三大峠の雁坂峠に着く。

秩父往還の歴史を感じさせる峠にはベンチがあり、一息入れて素晴らしいロケーションを楽しむ。眼下の広瀬湖の後方には、薄っすらと富士山が君臨している。明るい笹原の峠に涼しい風が吹き渡っていた。

広瀬に向かって笹原の急斜面をジグザグに下り、どんどん高度を下げていく。笹原からブナ林に変わり瀬音が近づくと傾斜が緩み、峠沢（とうげさわ）から久渡沢（くどさわ）に変わる沢の右岸から左岸に渡り、沢沿いに下る。

ロープのある川べりの道、河原歩きや沢を渡る道を慎重に進む。下るにつれて歩きやすい道に変わり、小沢を何本か横切り、平坦な道から急な坂道を下ると立派な沓切沢（くつきりさわ）橋の架かる舗装林道に下り立つ。

閉鎖されている広い車道を40分ほどで、雁坂トンネルの料金所ゲートを右下に見て、少し登り、鶏冠山大橋の下を通り、道標により車道から右に下る。久渡沢つり橋 ※2 を渡って進むと、雁坂峠入口バス停に出る。 ※3 右折して、道の駅みとみの前を通過して、市営駐車場に戻った。

（12年9月29日(土)歩く）

●コースタイム

駐車場—20分—登山口—2時間—1869m地点—1時間—展望地—25分—木賊山—15分—甲武信小屋—15分—甲武信ヶ岳—10分—甲武信小屋—45分—破風山避難小屋—40分—西破風山—1時間—雁坂嶺—15分—雁坂峠—1時間10分—沓切沢橋—1時間—駐車場

[計9時間15分]

●費用

新宿＝塩山 JR特急券とも 3190円
塩山駅＝西沢溪谷入口 バス 1000円

●問い合わせ先

山梨市観光課 0553-22-1111
山梨市役所三富支所
0553-39-2121 ※4
山梨交通 0552-23-0821
甲武信小屋 090-3337-8947



雁坂峠

●地図

居倉 金峰山 雁坂峠（2万5千）
甲府（20万）



このページの情報は、新ハイキング社発行の「新ハイキング 2013年9月号」に掲載された記事を、新ハイキング社の許可を得て転載したものです。

掲載当時の文章をそのまま掲載していますので、コースの現況や交通機関等の情報が現在と相違していることがあります。（一部修正箇所は注釈を加筆しています）

実際にコースを歩いてみて、「がけ崩れで通れなくなっている」「コースが付け変わっている」「新しく標識ができている」などの情報がありましたら、山梨市観光協会（山梨市役所観光課内）まで情報をお寄せください。

- ※1 近丸新道は、渡渉を伴う箇所が複数あり、増水時は危険です。また、砂礫地の登山道では侵食が進んでいる箇所があるため、注意が必要です。
- ※2 正しくは、久度沢橋
- ※3 現在、雁坂峠入口バス停はありません。塩山行きバスは自由乗降区間となっています。また、山梨市駅行きバスの最寄バス停は、道の駅みとみです。
- ※4 登山に関するお問い合わせは山梨市観光協会（山梨市役所観光課内）までお願いします。